

# 保倉川放水路整備後の環境影響等の 地元懸念事項について

令和5年12月8日  
北陸地方整備局 高田河川国道事務所

- 保倉川放水路整備に伴う環境影響等について、平成19年度(関川水系河川整備計画 原案に対する意見)から、現在までいただいているご意見より、主な地元懸念事項は、下記のとおり。
- ~ の項目は、保倉川放水路環境調査検討委員会で、ご意見ご助言をいただきながら、適切な対応を行っていく。
- 放水路への津波遡上は、関川流域委員会において、放水路整備に伴い今後進める「まちづくり」計画の情報を踏まえて、津波に対する必要な防災対策について上越市等と連携しながら検討を進めていく。

## 開削による海風の影響

開削による飛来塩分の影響、放水路からの飛来塩分の発生

開削による周辺地下水の低下

海水の浸入による地下水への影響

放水路内の水質(海水で満たされることによる不安)

海域への影響(土砂濁り等)

放水路への津波遡上

保倉川放水路  
環境調査検討委員会

関川流域委員会

# 保倉川放水路整備後の環境影響等の地元懸念事項について (放水路への津波遡上)

- 平成29年度に新潟県が公表した津波浸水想定図と同条件となるよう解析モデルを再現し、数値シミュレーションを用いて保倉川放水路整備後の予測検討を実施。
- L1津波は、関川河口で「1964年新潟地震津波」、保倉川放水路河口で「1983年日本海中部地震津波」の津波水位が最大となるため、「1964年新潟地震津波」、「1983年日本海中部地震津波」を対象とする。
- L2津波は、関川河口から保倉川放水路河口予定位置の沿岸で津波水位が最大となるF41断層を対象とする。

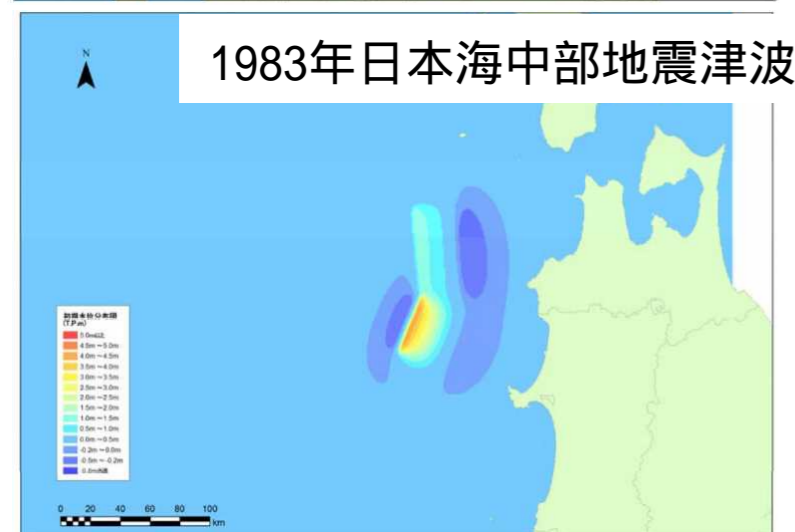


図 L1津波による津波初期水位分布



図 新潟県によるL2津波対象波源

表 各市町村での水位が最大となる津波波源

市町村名	平地(※)	全体
糸魚川市	F41(上越・糸魚川沖)	F41(上越・糸魚川沖)
上越市	F41(上越・糸魚川沖)	F41(上越・糸魚川沖)
柏崎市	F41(上越・糸魚川沖)	F41(上越・糸魚川沖)
出雲崎町	F42(佐渡西方・能登半島北東沖)	F42(佐渡西方・能登半島北東沖)
長岡市	F38(越佐海峡)	F38(越佐海峡)
新潟市	F38(越佐海峡)	F38(越佐海峡)
聖籠町	F34(県北・山形沖)	F34(県北・山形沖)
新発田市	F34(県北・山形沖)	F34(県北・山形沖)
胎内市	F34(県北・山形沖)	F34(県北・山形沖)
村上市	F34(県北・山形沖)	F34(県北・山形沖)
粟島浦村	F35(佐渡北)	F30(秋田・山形沖)
佐渡市	F39(佐渡西)	F39(佐渡西)

※平地：海岸線から200m程度以内の標高が8mを超えない海岸線  
(日本海における大規模地震に関する調査検討会報告書(平成26年8月))

レベル	定義	防護目標	要求性能
L1津波 (設計津波)	発生頻度の高い津波	「設計津波」に対しては、可能な限り構造物で人命・財産を守りきる「防災」を目指す。	【防災】 ・人命を守る ・財産を守る / 経済活動を守る
L2津波	最大クラスの津波	「設計津波」を超える規模の津波に対しては、最低限人命を守るという目標のもとに被害を可能な限り小さくする「減災」を目指す。	【減災】 ・人命を守る ・経済的損失を軽減する ・大きな二次災害を引き起こさない ・早期復旧を可能にする。

## (放水路への津波遡上)

- シミュレーションの結果、L1津波では、放水路全体に伝播するものの、開削した放水路から堤内地への浸水は生じない。
- L2津波については、放水路整備に伴い今後進める「まちづくり」計画の情報を踏まえて、津波に対する必要な防災対策について上越市等と連携しながら検討を進める。

### L1 津波

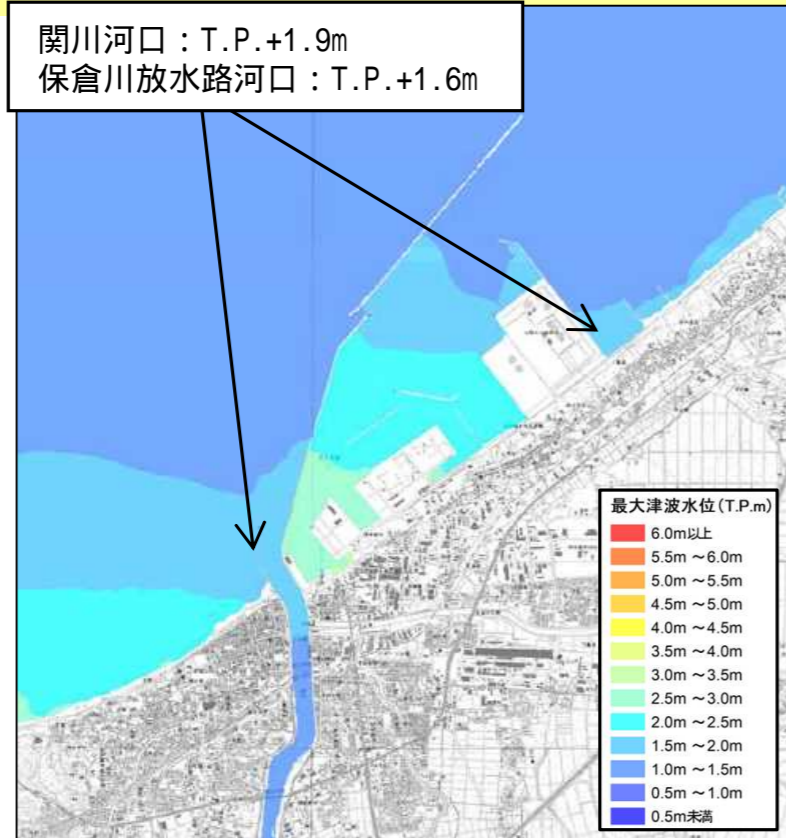


図 新潟地震による津波(L1津波)の最高水位平面分布 (H29新潟県検討時)

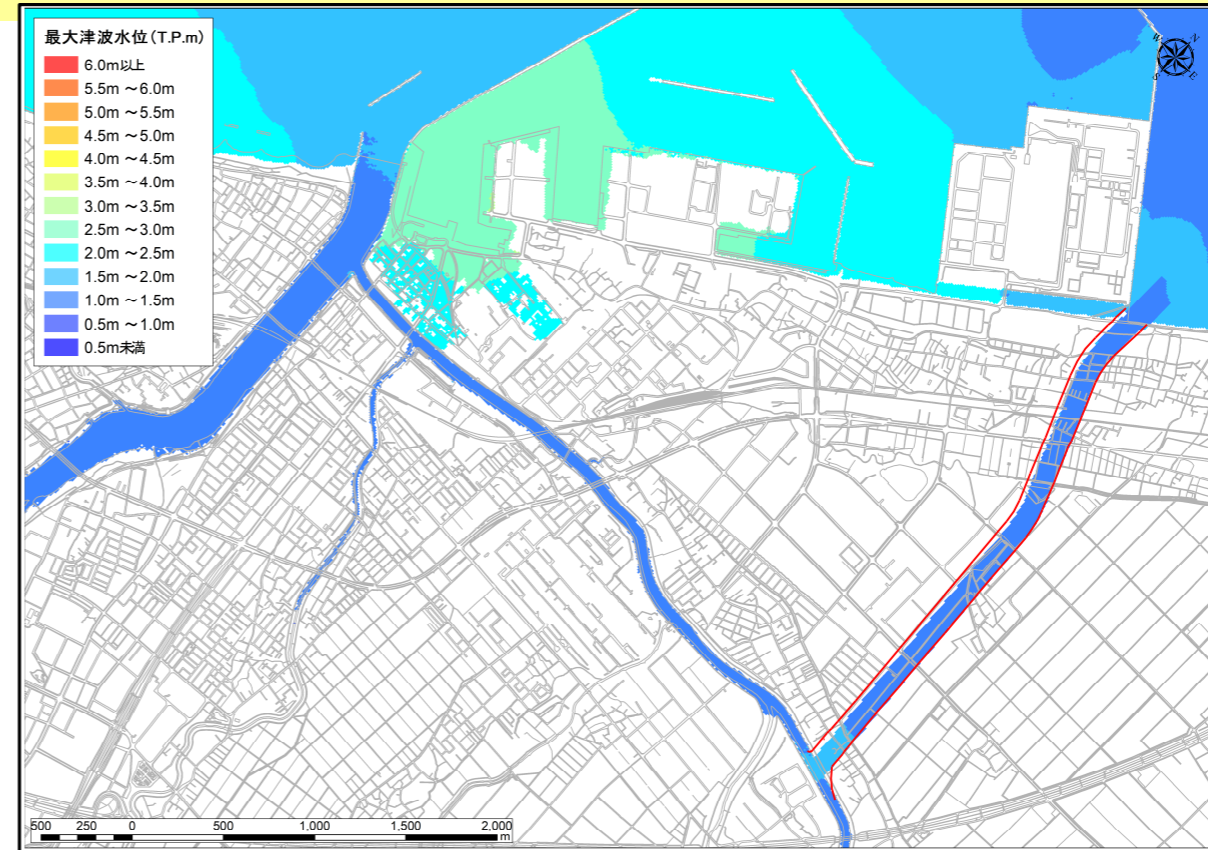


図 新潟地震による津波(L1津波)の最高水位平面分布 (放水路あり)

変更原案P68、113

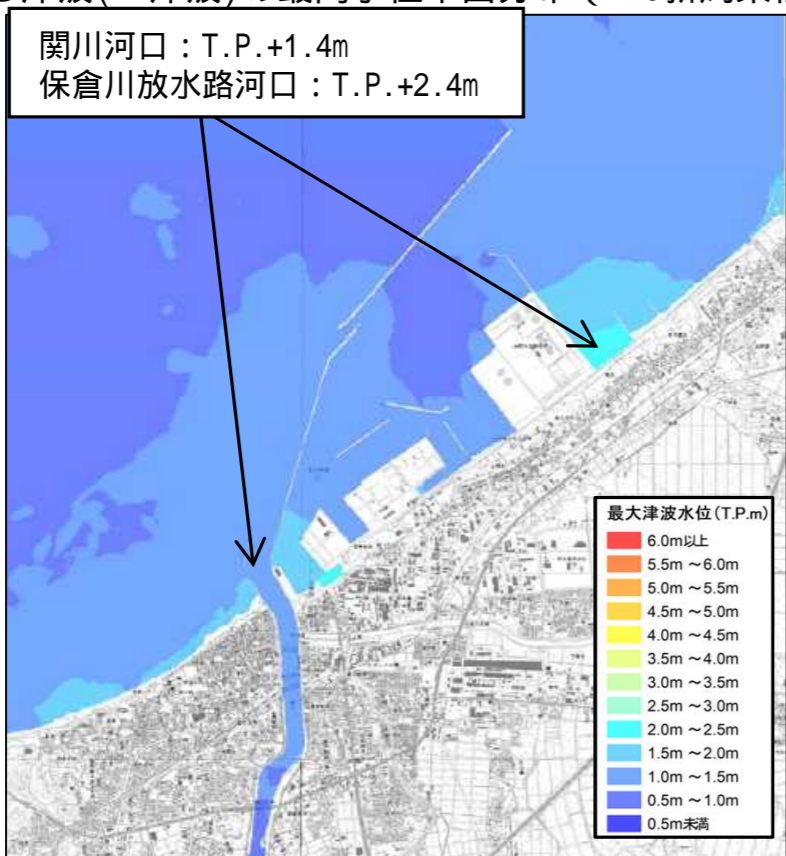


図 日本海中部地震による津波(L1津波)の最高水位平面分布 (H29新潟県検討時)

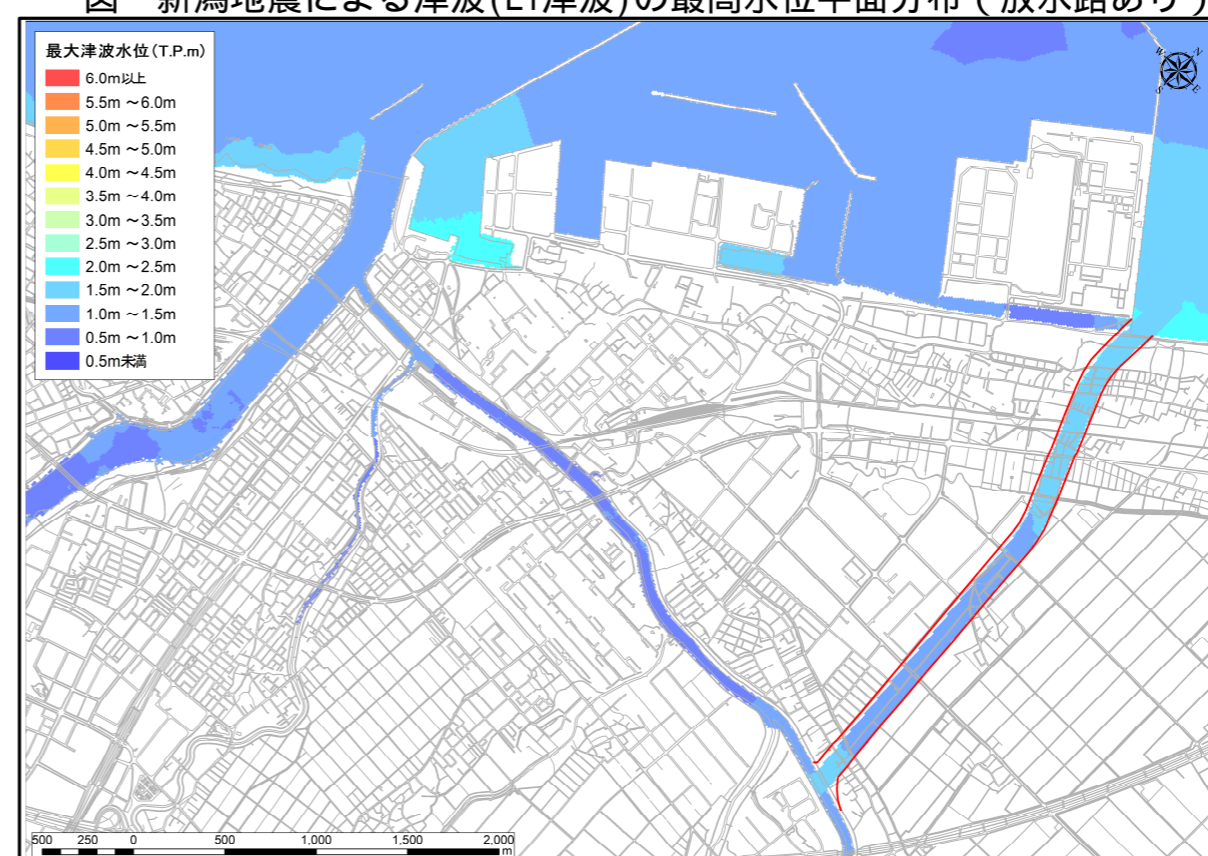


図 日本海中部地震による津波(L1津波)の最高水位平面分布 (放水路あり)

本検討では、河口部では、予測の条件として、河口閉塞の防止を図るため導流堤(約200m程度)の設置を想定。

本検討では、保倉川と放水路の分派部には分派堰は想定していない。

- シミュレーションの結果、L2津波では、放水路整備後において一部で放水路周辺の堤内地への浸水が生じる。
- L2津波への対応については、シミュレーションの結果を精査し、総合的な津波対策について関係機関等と連携しながら検討を進める。

## L2津波

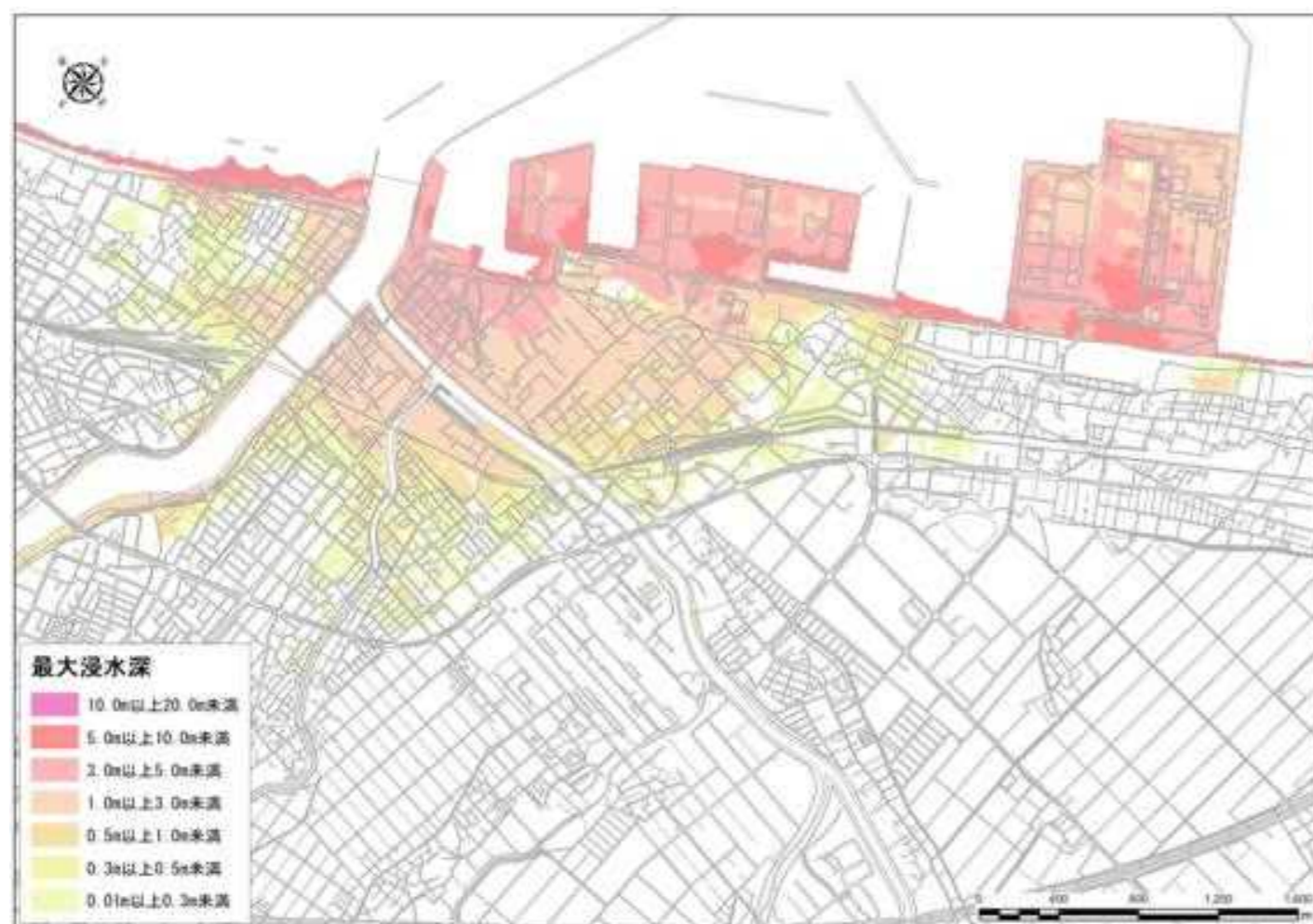


図 最大浸水深図 (新潟県公表津波浸水想定 [H29公表時])

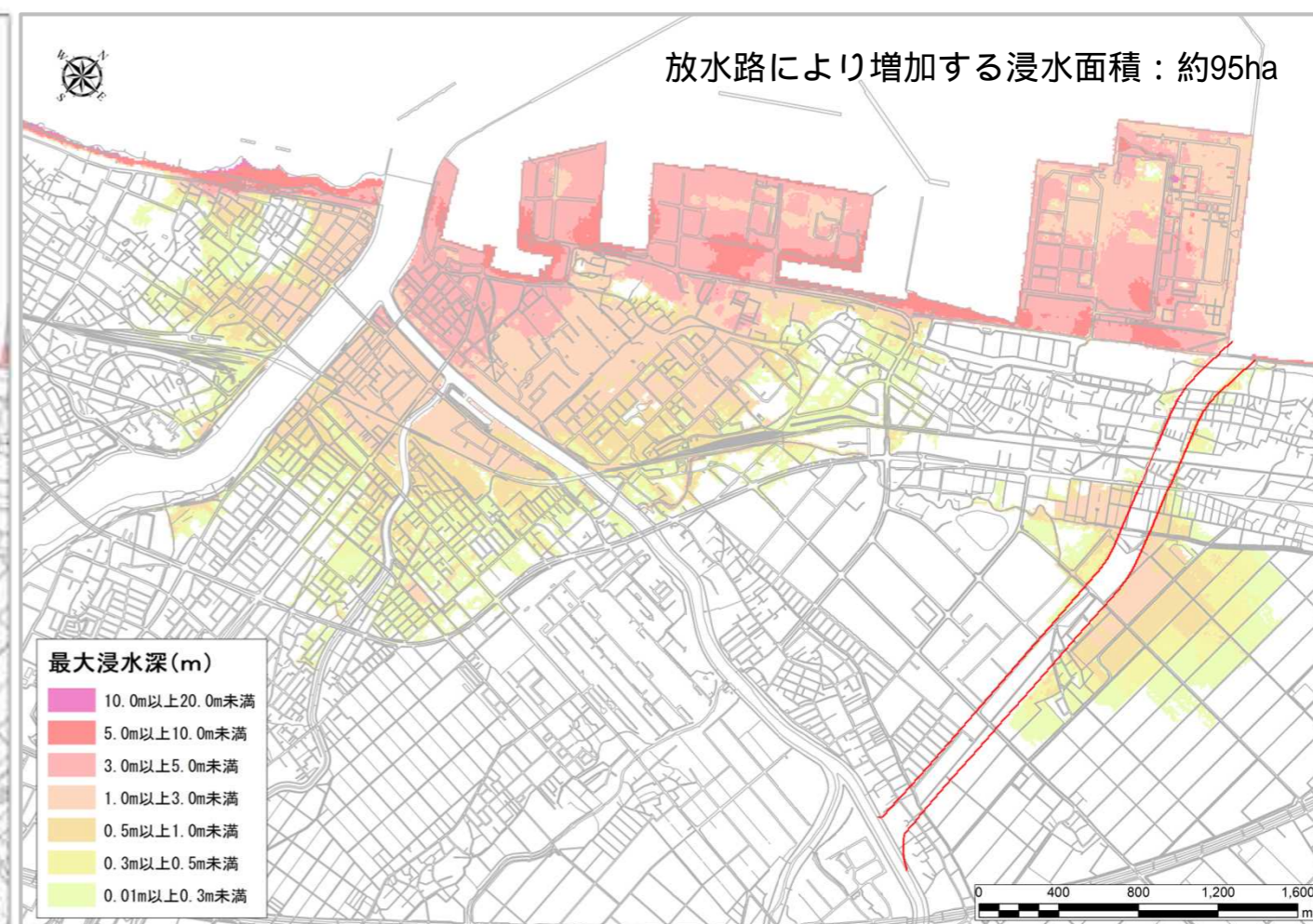


図 最大浸水深分布図 (保倉川放水路あり)

本検討では、保倉川本川からの分派施設は想定していない。  
本検討では、河口部では、予測の条件として、河口閉塞の防止を図るため導流堤(約200m程度)の設置を想定。